

科目名	現代の国語		履修学年	第1学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	「新編現代の国語」(東京書籍)			
使用教材 (出版社)	「新編現代の国語 学習課題ノート」(東京書籍)書いて覚える漢字練習ノート(株式会社啓隆社)			
学習の目標				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
教科担当者から				
国語による表現と理解の能力の育成を基本とし、伝え合う力を高めることがこの科目の中心的なねらいとなる。(伝え合う力:人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して円滑に相互伝達、相互理解を進めていく能力) また、心情を豊かにしたり、言語感覚を磨くことで、他人を思いやる心や感動する心、そして言葉の適切さや美しさについての感覚をはぐくむ。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
評価方法	○ 重視するところ			
課題の取組み状況	○	○	○	
提出物	○	○	○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A: 十分満足できる状況 B: 概ね満足できる状況 C: 努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合(%)	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	1 自己を見つめる		○	○	筆者独自の考え方を読み取り，人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。	B 8
				○	○	筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み，自分に当てはめて考える。	
			○		○	情報を整理し，内容や構成に注意して話す。	
	5～6	2 他者に出会う	○	○		情報と想像力の関係を論じた文章を読み，意見の根拠を的確に理解して筆者の主張をつかむ。	C 5
			○	○		評論の書かれ方を理解し，読み方を知る。	
			○	○	○	情報を集めて検討し，構成を工夫して意見文を書く。	
		前期中間考査	○	○			B1
	7～8	3 言葉と生活 1	○		○	目的や相手に合った分かりやすい説明をする。	A 10
				○	○	複数の文章を読み比べ，自分の考えを深める。	
			○	○		図表や画像から必要な情報を読み取る。	
	9	4 視野を広げる	○	○		身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み，提示された新しい視点について理解する。	B 8
				○	○	色について論じた文章を，具体例の役割を押さえながら読み，筆者の価値観と主張をつかむ。	
			○	○		話し合いの進め方を工夫し，考えを深める。	
後期		前期期末考査	○	○			B1
	10	5 社会と関わる	○	○		自分の道を切り開いた筆者の体験談から，仕事に対する思いを読み取る。	B 12
				○	○	読書を通じて将来の職業や働き方を考える。	
			○		○	調べたことを整理して，考えたことを分かりやすくまとめる。	
		後期中間考査	○	○			B1
	11～12	6 言葉と生活 2	○		○	発想を広げてアイディアを整理し，まとめる。	B 8
			○	○		相手意識を持って言葉を選ぶ。	
			○	○		記事の読み取りを踏まえ，根拠を明確にして意見をまとめる。	
	1	7 世界とつながる		○	○	「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み，その展開を論理的に捉え，筆者の価値観を理解する。	A 10
			○	○		出来事の順序に着目しながら，戦時下の人々の状況と，作品に一貫する筆者の思いを読み取る。	
	2～3	8 未来に目を向ける		○	○	人間の心・意識について体験を踏まえつつ考察する文章を読み，人間への認識を深める。	C 5
			○	○		推論の仕方を理解し，日常で使えるようになる。	
			○	○		「自立」の在り方について考察する文章を読み，自分の考えを持ち，視野を広げる。	
				○	○	発表の仕方や，話の聞き方を工夫する。	
		学年末考査	○	○			B1

科目名	言語文化		履修学年	第1学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	新 言語文化 (三省堂)			
使用教材 (出版社)	新 言語文化 学習課題ノート (三省堂)			
学習の目標				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
教科担当者から				
国語による表現と理解の能力の育成を基本とし、伝え合う力を高めることがこの科目の中心的なねらいとなる。 (伝え合う力:人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して円滑に相互伝達、相互理解を進めていく能力) また、心情を豊かにしたり、言語感覚を磨くことで、他人を思いやる心や感動する心、そして言葉の適切さや美しさについての感覚をはぐくむ。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
規 準	・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。		・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解したり、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。
評価方法	○ 重視するところ			
課題の取組み状況	○		○	○
提出物	○		○	○
定期考査	○		○	
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準								
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間	
			知	思	主			
前期	4	「千年の時が与えてくれる安堵」		○	○	言語文化の現代的な価値を考える	B近 2	
		「枕草子 春はあけぼの／ありがたき	○	○		文章に表れたものの見方・考え方を捉える	B古 4	
	5	「故事二編 虎の威を借る／朝三暮	○	○		慣用的な表現を捉える		
		「ゴール」		○	○	物語の解釈の多様さを考える	B近 4	
		「フォトレポートに表す」		○	○	物語の解釈の多様さを考える	A 2	
		前期中間考査	○	○			A1	
	6	「沙石集 児の飴食ひたること」	○	○		物語を構成する要素を捉える	B古 5	
		「説苑 景公之馬」	○	○		物語の全体構成を捉える		
	7	「羅生門」	○	○		物語の展開を把握する	B近 6	
		「短歌・俳句に表す」	○	○		素材のよさや味わいを生かす	A 2	
	8	「伊勢物語 芥川／筒井筒」		○	○	物語に表れた心情表現を考える	B古 5	
	9	「和歌十首 小倉百人一首より」		○	○	作品世界を豊かに想像する	B古 4	
	後期	10	前期期末考査	○	○			A1
			「オムライス」	○	○		心情表現の多様さを捉える	B近 4
		「十八史略 鶏口牛後／先従隗始」	○	○		言語表現の多様さを捉える	B古 6	
		「平家物語 木曾の最期」		○	○	人物像を批評する		
		後期中間考査	○	○			A1	
		「詩に表す」	○	○		語句や表現技法を吟味する	B古 6	
11		「漢詩四編」	○	○		作品の背景を想像する		
		「インタビュー『人間』を描きたい」		○	○	言語文化の価値を捉え直す	A 2	
1		「徒然草 神無月のころ／家居のつきづきしく」	○	○		身のまわりの物事を批評的に捉える	B古 5	
2		「なめとこ山の熊」	○	○		物語を批評的に捉える	B近 4	
3	「論語八章」		○	○	ものの見方・考え方を振り返る	B古 5		
	学年末考査	○	○			A1		

科目名	歴史総合		履修学年	第1学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	歴史総合（実教出版）			
使用教材 (出版社)	歴史総合 演習ノート（実教出版）			
学習の目標				
会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。				
教科担当者から				
歴史は過去のことを学ぶ学問であると言われます。しかし一方で、過去を知るからこそ、「今、いったいこの世界の何が問題なのか」を知ることができるという魅力もあると思います。得られるものは、すぐに役立つ解決の方法ではないかもしれませんが。しかし、この未完成で発展途上の人間社会を見渡したときに、私たちや世界の人々を苦しめるたくさん問題は、いったいなぜ起こってしまったのか。私たちは、この世界と私たちの暮らしをほんの少しでも良いものにするために、何をしていくべきなのか。歴史総合は、近現代の時代を中心に学習しながら、この課題に取り組めます。ここから、我が国はもちろん、世界を見渡す力を養っていきましょう。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付いている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想している。また、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりできる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度で取り組んでいる。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚がある。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察		○	○	
課題の取り組み	○	○	○	
提出物			○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	オリエンテーション			○	・高校の歴史学習の動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につける。	1
	4～5	第1章 1. 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動 2. 江戸時代の生産・流通と諸改革 3. 幕政の改革と東アジア世界	○	○		・アジア諸帝国と海域世界の繁栄について考える。	5
			○			・ヨーロッパの海外進出について考える。	
				○	○	・17世紀に成立した日本の江戸幕府と中国の清朝について考える。	
			○			・商品経済の発達が発達した江戸時代の経済にどのような影響を与えたのか考える。	
	5～6	第2章 4. イギリス産業革命とアメリカ独立戦争 5. フランス革命とウィーン体制 6. アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立 7. オスマン帝国の衰退とロシア 8. アヘン戦争の衝撃と日本の開国 9. 江戸幕府の滅亡	○	○		・江戸幕府が国内と国外に抱えた問題点について考える。	10
			○	○		・主権国家の成立過程について考える。	
			○			・イギリス産業革命について考える。	
				○		・フランス革命とウィーン体制についてについて考える。	
				○		・独立後のアメリカ合衆国の発展とその過程で起きた南北戦争について考える。	
			○	○		・オスマン帝国の衰退過程について考える。	
			○			・アヘン戦争とインド大反乱について考える。	
				○		・尊皇攘夷運動の高まった理由を考える。	
		前期中間考査					1
	6～7	第3章 10. イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツ統一 11. 明治政府の諸改革 12. 日本のアジア外交と国境問題 13. 自由民権運動と大日本帝国憲法	○		○	・19世紀のイギリスとフランスの繁栄について考える。	9
			○	○		・明治維新の過程を考える。	
			○			・明治政府が清や朝鮮とどのような関係を築いてきたか考え	
				○	○	・明治政府の方針と自由民権運動の関係、政党について考え	
	7～9	第4章 14. 帝国主義の時代へ 15. 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争 16. 日清戦争後の東アジア 17. 日露戦争と東アジアの変動 18. 日本の産業革命	○	○		・帝国主義について考える。	9
			○			・日清戦争の過程と台湾征服戦争について考える。	
			○	○		・清をとりまく国際情勢や清国の改革について考える。	
			○			・日露戦争と日本の韓国侵略について考える。	
後期		前期期末考査		○		・日本の産業の発展、都市と農村の社会問題について考える。	1
	10	第5章 19. 第一次世界大戦 20. ロシア革命とソ連の成立 21. 米騒動と大正デモクラシー 22. ヴェルサイユ体制とワシントン体制 23. アジアの民族運動 24. 第一次世界大戦後の欧米諸国	○			・第一次世界大戦の全容について考える。	8
				○		・ロシア革命の原因や経過について考える。	
			○			・第一次世界大戦が日本に与えた影響について考える。	
			○			・ワシントン体制について考える。	
			○			・朝鮮半島と中国の動きについて考える。	
			○			・1920年代のアメリカ合衆国について考える。	
				○	○	・協調外交と山東出兵について考える。	
	11	第6章 26. 世界恐慌と各国の対応 27. ファシズムの時代 28. 満洲事変と軍部の対立 29. 日中戦争と戦時体制 30. 第二次世界大戦の勃発 31. 第二次世界大戦の終結 32. 国際連合の成立と冷戦 33. 日本占領と日本国憲法 34. 朝鮮戦争と日本	○	○		・イタリアやドイツでファシズムが台頭した理由を考える。	8
			○			・満洲事変と「満洲国」の成立、日本の孤立化について考え	
				○	○	・日中戦争の内容と影響を考える。	
			○			・国ごとのアニメーションの違いを考える。	
				○		・第二次世界大戦のはじまりについて考える。	
					○	・第二次世界大戦の展開をみる。	
			○			・国際連合の成立と組織の内容について考える。	
			○			・GHQの日本占領方針について。	
		後期中間考査				・日本の独立回復と日米安保条約について考える。	1
	12	第7章 35. 植民地の独立 36. 米ソ両陣営の動揺 37. 日本の国際社会復帰と高度経済成長	○			・植民地の独立について考える。	6
				○		・ベトナム戦争とアメリカ社会との関係を考える。	
			○			・日本の高度経済成長期を考える。	
	1～2	第8章 38. 石油危機と世界経済 39. 緊張緩和から冷戦の終息へ 40. 日本の経済大国化 第9章 41. 地域紛争と対立 42. 国際秩序の変容	○			・新自由主義について考える。	9
				○		・ソ連の解体と東欧の変革、ドイツ統一について考える。	
			○			・日本の経済大国化と国際的地位の向上について考える。	
			○			・冷戦後の世界、民族の対立を考える。	
			○	○		・中国・インドの台頭について考える。	
		防災学習		○	○		1
		学年末考査					1

科目名	公共		履修学年	第1学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	高等学校 公共 これからの社会について考える（数研出版）			
使用教材 (出版社)	高等学校 公共 整理ノート（数研出版）			
学習の目標				
人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。				
教科担当者から				
「公民」という教科の魅力は、「いま、この社会でいったい何が起きているのか」を知ることができるころだと思っています。この未完成で発展途上の人間社会を見渡したときに、私たちや世界の人々を苦しめるたくさんの問題はいったいなぜ起こってしまったのか。私たちは、この世界と私たちの暮らしをほんの少しでも良いものにするために、何をしていくべきなのか。現代社会はそれらの問題を考える出発点となる科目です。ここから、高校の地歴公民科のそれぞれの科目に進み、世界を見渡す力を養ってください。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について、広い視野に立って多角的・多面的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度及びよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察		○	○	
課題の取り組み	○	○	○	
提出物			○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準						
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			時間
			知	思	主	
前期	4	生活のなかの公共		○	公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。	4
	5	第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	○		選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。	7
		第1節 西洋近代の思想		○	幸福、正義、公正などに着目して考えている。	
		第2節 現代の諸課題と倫理			○ 公共的な空間でどのように生きるかについて、先哲の生き方などを参考に、人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
	6	第2章 公共的な空間における基本原理	○		人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。	8
		第1節 民主社会の基本原理			○ 公共的な空間における基本的原理と日本国憲法の基本的原則を関連させながら、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
		第2節 日本社会の基本原理		○	基本的人権が保障されるにいたった経緯を、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	
				○	法をよりよく変えていくために、自由権の意味や、社会権が私たちの生活をどのように変えたのか、新しい人権とは何かをさまざまな立場に立って考察している。	
	前期中間考査		○	○		1
	7、8	第3章 ルールをつくり守る私たち	○		法や規範の意義役割に関わる社会の事柄や課題を理解している。	8
後期	9	第1節 法と契約		○	法には公法や私法があること、法は刑罰などによって国民の行為を規制し社会の秩序を維持するだけでなく、国民の活動を促進し、日常生活に密接に関連していることを理解している。	
		第2節 司法参加の意義		○	法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
				○	成年年齢が18歳以上となったことに対し、成年年齢の意味と成年の責任について理解している。	
				○	自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	
				○	司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
				○		
	9	第4章 政治に参加する私たち	○		選挙権年齢が18歳以上であることを踏まえ、選挙の意義や、政治的無関心の危険性などについて理解している。	7
		第1節 政治参加と民主政治の課題		○	国会の地位と構成・権限、議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について、理解している。	
				○	地方自治には、直接民主制の考え方に基づくしくみが、国政よりも多く取り入れられていることを理解しつつ、地方自治の課題についても考察、構想し、表現している。	
				○	政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
	前期期末考査		○	○		1
	10	第2節 国際政治の動向	○		国際社会と国家主権に関わる社会の事柄や課題を理解している。	7
		第3節 国際政治の課題と日本の役割		○	日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。	
				○	核兵器を廃絶するためには何が必要かを考え、軍縮の意義や効果について、さまざまな観点から考察している。	
	11			○	日本の安全保障と防衛について、国連憲章や日米安全保障条約、平和主義を掲げる日本国憲法の下、現代の諸課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。	
		第5章 経済活動を行う私たち	○		経済の基本的なしくみと資本主義経済、社会主義経済の特徴を理解している。	8
		第1節 経済のしくみと産業の変化		○	企業の役割や種類から、株式会社のしくみや企業の社会的責任について考察、構想し、論拠をもって表現している。	
				○	仕事と生活との調和という観点から、雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。	
				○	企業・家計・政府の経済主体を考え、経済的な主体となる私たちはどのように経済活動に参加しているのか、理解している。	
				○	雇用と労働問題について、日本的雇用慣行の崩れなど、現代の諸課題を主体的に考察、構想し、論拠をもって表現している。	
	12、1、2			○	雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。	
		後期中間考査	○	○		1
		第2節 市場経済のしくみと金融	○		市場経済の機能と限界に関わる事柄や課題を理解している。	12
		第3節 財政と社会保障		○	経済成長が生活に与える影響を、具体的事例をあげて考察している。	
		第4節 国際経済の動向と課題		○	財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。	
				○	財政政策の意義、日本の財政の課題を理解し、財政のしくみ、租税の意義と課題について、具体的に事例をあげて考察、構想し、主体的に考えている。	
3	3	課題研究 持続可能な社会づくりの主体となる私たち		○	地域の創造、よりよい国家・社会の構築へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。	4
				○	課題の解決に向けて事実を基に協働して考察し、妥当性や効果、実現可能性などを指標に、自分の考えを説明、論述している。	
				○	現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
		防災学習		○		1
	学年末考査		○	○		1
			○	○		1

教科 科目 単位数	数学 数学Ⅰ 3	受信校	北海道標津高等学校	学科 学年(年次) 履修・実施	普通科 第一学年 必修・習熟度
教科書 副教材	「新編 数学Ⅰ」(数研出版) 「教科書傍用 新課程 3 TRIAL 数学Ⅰ」(数研出版)				

1 目標

- 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
 - (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
 - (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
- (高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)より)

2 学習のポイント

- ・なぜ?を大切にすること。
- ・図やグラフなどを大きく描く。
- ・別解を大切にすること。
- ・ゴールから逆算して考える。
- ・学習の理解度を上げるために、最低限の予習として「教科書をじっくり読む」ことを推奨すること。
- ・発展的な内容を取り上げ、思考力・判断力・表現力を磨くことを目指す。

3 学習の評価

(1) 評価の観点とその趣旨

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

(2) 評価方法と観点との関連(◎=特に関連の深いもの)

	評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア	学習活動の観察	○	○	◎	学習活動の取組
イ	ワークシート		◎	○	ワークシート(振り返りシート等)の記述
ウ	宿題・小テスト	◎		○	宿題の取組、小テストの結果
エ	定期考査(単元テスト)	○	○		定期考査、または単元テストの結果
総括時の比率		1	1	1	

4 その他

＜遠隔授業について＞

- (1) 授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し

出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出ても構いません。
(2) 授業者が現地にいない分、皆さんの積極的な活動がより一層重要になります。メリハリをもって活動したり、わからないところを互いに教え合ったりすることは特に重要です。ぜひ、一緒に授業を「作っていく」つもりで参加してください。
(3) その他の遠隔授業の特性についてはオリエンテーション時に説明します。
<学習の支援について>
授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。

5 年間授業計画（計 105 時間）

月	単元	配当	主な学習内容	目標・ねらい	観点ごとの主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
4	オリエンテーション	1	数学Ⅰの学習について		
	第1章 数と式 第1節 式の計算	8	1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解 補充問題	・ 整式の表現等について理解し、加法・減法の計算ができる。 ・ 指数法則や公式等を用いた計算ができる。 ・ 置換等の工夫をしながら計算ができる。 ・ 公式等を用いた因数分解ができる。 ・ 整式の形によつて的確に変形する方法を考察できる。	①定期考査の結果 （単元テストの結果） 小テストの結果 ②定期考査の結果 （単元テストの結果） ワークシートの記述 ③ワークシートの取組 宿題の取組 学習活動の取組
5	第2節 実数	6	4 実数 5 根号を含む式の計算 補充問題	・ 数の分類について理解し、表現できる。 ・ 平方根の性質について理解し、根号を含む式の計算ができる。	
	第3節 1次不等式	9	6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式 補充問題 章末問題	・ 不等式の性質を理解している。 ・ 1次不等式を解くことができる。 ・ 身近な問題に1次不等式が活用できることに関心をもち、考察しようとする。 ・ 絶対値の意味を理解し、絶対値を含む方程式・不等式を解くことができる。	
6	第2章 集合と命題	11	1 集合 2 命題と条件 3 命題とその逆・対偶・裏 4 命題と証明 補充問題 章末問題	・ 集合の分類等を理解し表現できる。 ・ 命題の真偽の意味を理解し、考察できる。 ・ 対偶等の意味を理解し、それらの真偽を考察しようとする。 ・ 対偶や背理法を用いた証明法について関心をもち、考察できる。	①定期考査の結果 （単元テストの結果） 小テストの結果 ②定期考査の結果 （単元テストの結果） ワークシートの記述 ③ワークシートの取組 宿題の取組 学習活動の取組
7	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	9	1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 補充問題	・ 関数の定義等を理解し、1次関数のグラフが描ける。 ・ 放物線の性質を理解している。 ・ グラフの平行移動を理解し、平方完成ができる。	①定期考査の結果 （単元テストの結果） 小テストの結果 ②定期考査の結果 （単元テストの結果） ワークシートの記述 ③ワークシートの取組 宿題の取組 学習活動の取組
8	第2節 2次関数の値の変化	9	3 2次関数の最大・最小	・ 2次関数の最大値と最小値を求めることができる。	
9					

10			4 2次関数の決定 補充問題	・2次関数の決定条件に興味・関心を持ち、考察しようとする。	
	第3節 2次方程式と2次不等式	15	5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式 補充問題 章末問題	・判別式の符号と実数解の個数の関係を理解し、解の考察ができる。 ・x軸の共有点の個数や位置関係を判別式の符号から考察できる。 ・2次関数のグラフと関連付けて2次不等式を解くことができる。 ・身近な問題を2次不等式の問題に帰着し問題を解くことができる。	
11	第4章 図形と計量 第1節 三角比	10	1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 補充問題	・三角比の定義を理解し、具体的な事象を三角比の問題として考察できる。 ・三角比の1つの値から残りの値を求めることができる。 ・鈍角の三角比の定義を理解し、問題を解くことができる。	①定期考査の結果 (単元テストの結果) 小テストの結果 ②定期考査の結果 (単元テストの結果) ワークシートの記述 ③ワークシートの取組 宿題の取組 学習活動の取組
12	第2節 三角形への応用	15	4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用 補充問題 章末問題	・正弦定理の図形的意味を考察し、三角形の外接円、円周角と中心角の関係などから、正弦定理を導こうとする。 ・正弦定理を利用し、三角形の辺や角の大きさを求めることができる。 ・余弦定理の図形的意味を考察できる。 ・余弦定理を利用し、三角形の辺や角を求めることができる。 ・条件に応じて正弦定理と余弦定理を使い分けて問題を考察できる。 ・条件に応じた方法で三角形の面積を求めることができる。 ・正弦定理と余弦定理を空間図形の計量に応用できる。	
1	第5章 データの分析	12	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間の関係 6 仮説検定の考え 補充問題 章末問題	・データを整理して全体の傾向を考察しようとする。 ・代表値を求めることができる。 ・中央値を用いる有用性について考察できる。 ・範囲や四分位数、箱ひげ図のかき方を理解し、データの比較ができる。 ・分散や標準偏差の定義とその意味を理解し、求めることができる。 ・散布図から相関関係を考察することができる。 ・相関係数を求め、データを考察することができる。 ・仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。	①定期考査の結果 (単元テストの結果) 小テストの結果 ②定期考査の結果 (単元テストの結果) ワークシートの記述 ③ワークシートの取組 宿題の取組 学習活動の取組
2					
3					

科目名	数学Ⅰ		履修学年	第1学年
			履修形態	必修
			履修単位	3単位
使用教科書 (出版社)	新編 数学Ⅰ（数研出版）			
使用教材 (出版社)	新課程 教科書傍用 3 T R I A L 数学Ⅰ（数研出版）			
学習の目標				
数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
教科担当者から				
・教科書・ワーク・プリントを中心に授業を進める。必ず，毎回持参すること。 ・板書をしっかりと取り，授業に集中すること。 ・授業中にプリントを配布するので，ファイルに整理し，提出できるようにしておくこと。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察			○	
提出物		○	○	
定期考査	○	○		
小テスト 単元テスト	○	○		
振り返りシート			○	
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準						
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			時間
			知	思	主	
前期	4	オリエンテーション			○	1
		到達度テスト①				1
		1章 数と式				
		1節 式の計算				
		1 多項式の加法と減法	○			2
		2 多項式の乗法	○			2
		3 因数分解	○	○		3
		補充問題、小テスト①	○	○	○	1
		2節 実数				
		4 実数	○			1
		5 根号を含む式の計算	○	○		4
		補充問題、小テスト②	○	○	○	1
		3節 1次不等式				
		6 不等式の性質	○			2
		7 1次不等式	○	○		3
		8 絶対値を含む方程式・不等式				1
		補充問題、小テスト③	○	○	○	1
	6	前期中間考査	○	○	○	1
	7	2章 集合と命題				
		1 集合	○	○		3
		2 命題と条件	○	○		3
		3 命題とその逆・対偶・裏	○	○		2
		4 命題と証明		○		2
		補充問題、小テスト④	○	○	○	1
		3章 2次関数				
		1節 2次関数とグラフ				
		1 関数とグラフ	○			2
		2 2次関数のグラフ	○	○		6
	8	補充問題、小テスト⑤	○	○	○	1
後期	9	前期期末考査	○	○	○	1
		2節 2次関数の値の変化				
		3 2次関数の最大・最小	○	○		4
		4 2次関数の決定	○	○		2
		補充問題、小テスト⑥	○	○	○	1
	10	到達度テスト②	○	○	○	1
		3節 2次方程式と2次不等式				
		5 2次方程式	○	○		3
		6 2次関数のグラフとx軸の位置関係	○			4
		7 2次不等式	○	○		6
		補充問題、小テスト⑦	○	○	○	1
	11	4章 図形と計量				
		1節 三角比				
		1 三角比	○	○		4
		2 三角比の相互関係	○			2
		3 三角比の拡張	○	○		3
		補充問題、小テスト⑧	○	○	○	1
	12	後期中間考査	○	○	○	1
		2節 三角形への応用				
		4 正弦定理	○			3
		5 余弦定理	○			4
		6 正弦定理と余弦定理の応用	○	○		3
		7 三角形の面積	○			2
		8 空間図形への応用		○		2
		補充問題、小テスト⑨	○	○	○	1
	1	5章 データの分析				
		1 データの整理	○			1
		2 データの代表値	○	○		1
	2	3 データの散らばりと四分位数	○	○		2
	3	学年末考査	○	○	○	1
		4 分散と標準偏差	○			2
		5 2つの変量の間の関係	○	○		1
		6 仮説検定の考え	○	○		1
		補充問題、小テスト⑩	○	○	○	1
		CBA学力テスト				1
		防災学習		○	○	1

科目名	生物基礎		履修学年	第1学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	生物基礎（実教出版）			
使用教材 (出版社)	アクセスノート生物基礎			
学習の目標				
日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
教科担当者から				
生物基礎では、生命現象の基礎的なことについて学んでいきます。ノートは黒板に書いたことを写すだけではなく、自分が重要だと思ったことをメモしましょう。また、提出物などは必ず期日までに提出するようにしてください。わからないことがあれば遠慮なく聞いてください。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察			○	
課題の取り組み			○	
提出物	○		○	
定期考査	○			
レポート		○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準								
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間	
			知	思	主			
前期	4	第1章 生物の特徴						
	5	1節 生物の多様性と共通性 1 生物の多様性と共通性 2 細胞の機能と構造	○		○	・全ての生物は「細胞」からできているという共通性を理解している。	7	
			○	○		・細胞の構造を知ることにより、原核細胞と真核細胞、動物細胞と植物細胞の共通性と多様性を説明することができる。		
		2節 細胞とエネルギー 1 代謝とエネルギー 2 酵素 3 光合成 4 呼吸	○		○	・細胞内では分解や合成などの代謝が行われ、その際同時にエネルギーの出入りや変換を伴うことを関連付けて説明できる。異化同化より代謝について理解しようと努めている。	7	
			○	○		・細胞の中でエネルギーの受け渡しにATPという物質が関わっていることを理解している。		
			○	○		・呼吸によって有機物からエネルギーが取り出されることを理解している。		
	6	中間考査	○	○			1	
	7	第2章 遺伝子とそのはたらき 1節 遺伝情報とDNA 1 遺伝子とDNA 2 遺伝子とゲノム 2節 遺伝情報の分配 1 遺伝情報の分配と複製 ＜実験＞体細胞分裂の観察	○	○	○	・身のまわりの材料を用いてDNAを抽出することができ、どんな生物もDNAを持つことを理解している。	6	
			○			・DNAの塩基配列が遺伝情報であることを理解している	6	
				○		・体細胞分裂の過程について染色体の動きを追いつながら説明できる。		
		○		○	・プレパラートの作成法を習得できる。			
			○			・体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について理解している。		
後期	8	3節 遺伝情報とタンパク質の合成 1 生物とタンパク質 2 タンパク質の合成 3 遺伝子の発現 ＜言語活動＞グループ討議、レポート				・タンパク質合成に際して、DNAの塩基配列がアミノ酸配列に置き換えられることを理解している。	7	
	9			○	○	・細胞周期における各時期に要する時間と観察される数との関係について考察することができる。		
				○	○	・体細胞分裂のひとつである卵割の観察を行い、卵割と通常の体細胞分裂の違いについて考察することができる。		
	8	期末考査	○	○			1	
	10	第3章 生物の体内環境とその維持 1節 体内環境 1 体内環境と体液 2 体内環境維持の仕組み	○		○	・生物の体内環境が保たれていることと、それに循環系・自律神経系・内分泌系が関わっていることを理解している。	6	
			○			・血液の組成とはたらきについて理解している。		
		11			○	○	・肝臓のつくりとはたらきを学習することで、肝臓で様々な物質の合成・分解・貯蔵が行われて体液の成分が保たれていることを説明することができる	6
			2節 体内環境の維持の仕組み 1 中枢神経と末梢神経 2 自律神経系による調節 3 内分泌系による調節	○			・自律神経系の分布とはたらきを理解している。	
			○			・交感神経と副交感神経が拮抗的にはたらいていることを理解している。		
				○	○	・ホルモンとは何かということを、はたらきや性質を学習することによって理解し、説明することができる。		
11		中間考査	○	○			1	
1	3節 免疫 1 生体防御と免疫 2 獲得免疫の仕組み 3 免疫と疾患	○	○	○	・病原体などの異物から身を守るために、それらの侵入を防ぐ仕組みや、それらを白血球やリンパ球のはたらきで排除するしくみを説明することができる。	6		
		○	○	○	・免疫に関する身近な例として、免疫システムがはたらかなくなるエイズについて理解している。			
2	第4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移 1 植生とその成り立ち 2 植生の遷移	○			・生物の集団と非生物的環境が互いに関係して、生態系をつくっていることを理解している。	5		
		○		○	・陸上には草原や森林などの様々な植生が見られ、それらは不変ではなく、長期的には移り変わっていくことを理解している。			
	3	2節 気候とバイオーム 1 バイオームの分布 3節 生態系と物質循環		○	○	・気温と降水量の違いによって、地球上では様々なバイオームが成立していることを説明することができる。	5	
			○	○		・植物を中心とした世界と日本のバイオームについて理解している。		
		1 生態系 2 生態系とエネルギーの流れ	○	○	○	・生態系において物質が循環すること及びそれに伴ってエネルギーが循環することを理解している。	4	
		4節 生態系のバランスと保全 1 生態系のバランス 2 人間生活と生態系 3 生態系の保全	○		○	・生態系のバランスについて理解し、生態系を保全することが重要であることを認識することができる。		
				○	○	・人為的に移入された生物が生態系にどのような影響を与えるかを資料を用いて具体的に考察することができる。		
		防災教育		○	○	・避難時の感染症対策や健康管理を理解する（実施時期未定）	1	
	2	学年末考査	○	○				

科目名	体育【保健体育】		履修学年	第1学年
			履修形態	必修
			履修単位	3単位
使用教科書 (出版社)	現代高等保健体育（大修館書店）			
使用教材 (出版社)	ステップアップ高校スポーツ（大修館書店）			
学習の目標				
各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高めるとともに、それらの経験を通して公正・協力・責任などの態度を育てましょう。また、生涯を通じて継続的に運動を実践できる資質や能力を身につけましょう。				
教科担当者から				
仲間と協力して目標設定、学習計画などに取り組み、みなさんが主体的に授業を進めていきます。個人練習やグループワークなど学習方法はさまざまです。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	運動の特性に応じた技能を身につけ、習得した技能を発表したり、チームの作戦を生かした攻防を展開してゲームが出来るようにする。種目の特性に応じた技術の構造や技能を高めるための効果的な練習の仕方、ルール、発表会や競技会の企画や運営の仕方を理解している。	自分やチームの能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して、練習の仕方やゲームの仕方を工夫する。	自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の 観 察	○	○	○	
提出物	○	○	○	
技能試験	○			
筆記試験	○		○	
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準								
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間	
			知	思	主			
前期	4	体育理論「H」 集団行動 体づくり運動「A」 新体力テスト	○	○	○	体力トレーニングの意義について理解を深め、目的に応じて活用できるようにする。 隊列を乱さず集団行動できるようにする。 体ほぐしの運動と体力を高める運動を通して運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	14	
	5 6 7 8 9	器械運動「B」 選択Ⅰ（球技「E」）	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。 自己の能力に応じて技を選択し、新たな技の練習を重ねて習得し、演技を発表する。	14	
		ダンス「G」	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。 手本の踊りを見て学び、リズムに合わせて全身を使って踊ることができるようになる。	4	
		陸上競技「C」 （強歩遠足の練習を含む）	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。 自己の能力に応じて運動の技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができるようになる。	10	
		強歩遠足	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。 仲間と励まし合いながら目標達成に向けて努力する。	2	
後期	10 11 12 1 2 3	選択Ⅱ（球技「E」）	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。 基本動作を学習し、投げ技と受け身、抑え技等を身につけ、対人技能を身につける。	14	
	体育理論「H」 選択Ⅲ（球技「E」）	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。	14		
	体育理論「H」 選択Ⅳ（球技「E」）	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。	14		
	スポーツ大会					8		
	1		防災学習					1

科目名	保健		履修学年	第1学年
			履修形態	必修
			履修単位	1単位
使用教科書 (出版社)	現代高等保健体育（大修館書店）			
使用教材 (出版社)	現代高等保健体育ノート（大修館書店）			
学習の目標				
わが国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるよう学習を深めましょう。				
教科担当者から				
学習方法はさまざまです。知識や理解を深め、それらをもとにグループワークなどを行い、自分の意見を述べたり仲間の意見を聞くことであらゆる視点から自分の健康や社会生活をみつめていきましょう。また、調べ学習をしてそれを発表するなど、仲間とのかかわりを大切にしていきます。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規準	健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解している。	健康を保持増進するための課題解決を目指して、知識を活用して総合的に考え、判断することを表現できる。	生涯の各段階と健康、社会生活における健康の保持増進について理解し、自らの健康を保持増進できるよう関心を持ち、学習活動を試行錯誤し、調整しながら取り組もうとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察	○		○	
提出物	○	○	○	
レポート		○	○	
単元テスト	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	1 単元 現代社会と健康 オリエンテーション					1
		01 健康の考え方と成り立ち	○	○	○	さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる。	5
		19 健康に関する環境作り	○	○	○	社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。	
		02 私たちの健康のすがた	○	○	○	わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる。	
	5	単元テスト	○	○			1
	6						
	7	15 現代の感染症	○	○	○	感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。	8
	8	16 感染症の予防	○	○	○	感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。	
		17 性感染症・エイズとその予防	○	○	○	性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。	
		03 生活習慣病の予防と回復	○	○	○	生活習慣病の種類と要因について説明できる。	
		04 がんの原因と予防	○	○	○	がんの種類や原因について説明できる。	
		05 がんの治療と回復	○	○	○	がんの一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。	
						がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。	
	8	単元テスト	○	○			1
後期	9	06 運動と健康	○	○	○	健康と運動の関係について説明できる。	8
	10						
	11	07 食事と健康	○	○	○	食事と健康について説明できる。	
		08 休養・睡眠と健康	○	○	○	健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。	
		09 喫煙と健康	○	○	○	喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。	
		10 飲酒と健康	○	○	○	飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。	
		11 薬物乱用と健康	○	○	○	薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。	
	11	単元テスト	○	○			1
							5
	12	12 精神疾患の特徴	○	○	○	精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。	
	1						
	2	13 精神疾患の予防	○	○	○	精神疾患を予防する方法について説明できる。	
		14 精神疾患からの回復	○	○	○	精神疾患の治療について例をあげて説明できる。	
		18 健康に関する意思決定・行動選択	○	○	○	意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。	
	2	単元テスト	○	○			1
							3
		2 単元 安全な社会生活					
		01 事故の現状と発生要因	○	○	○	事故の実態と被害について説明できる。	
		02 安全な社会の形成	○	○	○	安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。	
		03 交通における安全	○	○	○	交通事故の防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。	
		防災学習					1

教科 科目 単位数	芸術 書道Ⅰ 2	受信校	北海道標津高等学校	学科 学年（年次） 履修・実施	普通科 第一学年 必修・一斉
教科書 副教材	「書道Ⅰ」（教育出版）				

1 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2)書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3)主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

（高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）より）

2 学習のポイント

- (1)作品制作のポイントの整理や鑑賞活動などにワークシートを使用することもありますので、活用してください。
- (2)ほぼ毎時間、清書を提出してもらいます。自分で写真を撮影し、classroomを通して提出します。
- (3)試験は実施しません。毎回の提出作品やポートフォリオへの記述、取り組みの様子などをもとに評価をします。書道Ⅰでは、作品制作のための技術を身に付ける学習だけではなく、様々な学習活動を行い、評価をします。
- (4)この科目では、実技だけではなく、根拠をもって作品を鑑賞する活動や、制作する上で自分自身が考えたことを記述するといった活動があります。考えたことや感じたことを積極的に、文章や発言で表現するように心がけてください。
- (5)友達と作品の相互批評や、話し合いの場面も多くあります。積極的に参加してください。
- (6)実技教科なので用具・用材は大切です。直接作品に影響が出ますので、大切に扱ってください。

3 学習の評価

(1) 評価の観点とその趣旨

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法と観点との関連（◎＝特に関連の深いもの）

評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア 学習活動の観察	○	○	◎	学習活動の取組
イ ワークシート	○	◎	◎	FigJam、ワークシート、ポートフォリオ等への記述
ウ 作品	◎	○	○	提出作品
総括時の比率	1	1	1	

4 その他

<遠隔授業について>

- (1)授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出ても構いません。
- (2)授業者が現地にいない分、皆さんの積極的な活動がより一層重要になります。メリハリをもって活動したり、わからないところを互いに教え合ったりすることは特に重要です。ぜひ、一緒に授業を「作っていく」つもりで参加してください。
- (3)その他の遠隔授業の特性についてはオリエンテーション時に説明します。

<学習の支援について>

- (1)授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。直接相談しにくい場合は、classroomやポートフォリオに書いてもらっても構いません。

5 年間授業計画 (計 70 時間)

月	○題材 ●主な教材	配 当 (時)	【学習領域】 ・主な学習内容 □対面授業 ◇テスト等	目標・ねらい	観点ごとの 主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
4 / 5	○オリエンテーション	2	・書道 I の学習について ・書表現の多様性について知る。 □対面授業① (予定)	高等学校における書道の学習について見通しをもつことができる。 端末の使用方法についても理解することができる。	年間を通して以下の項目を主な評価の対象とする。 ①ワークシートへの記述状況、提出作品 ②ワークシートへの記述状況 ③取組の状況、ワークシートへの記述状況、提出作品
	○漢字の書の学習① 書風と結構法 ●九成宮醴泉銘 ●孔子廟堂碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・楷書の基本用筆を学ぶ ・様々な楷書の表現の習得	基本的な楷書の筆使いを学ぶ。 初唐の三大家の書を学び、同じ楷書の表現にも様々な違いがあることを理解し、表現することができる。	
	○漢字の書の学習② 多様な筆使い ●雁塔聖教序 ●顔氏家廟碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・入筆に留意して書く。 ・筆圧のかけ方による表現の違い。 ・軽快な書風と重厚な書風	入筆には様々な表現があることを知り、留意しながら書くことができる。 筆圧の違いによる表現の差異に気づき表現できる。	
	○漢字の書の学習③ 円筆と方筆 ●牛橛造像記 ●鄭義下碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・方勢で力強い書風 ・円勢でゆったりした書風	初唐の三大家のような楷書の姿だけではなく、様々な楷書の表現があることを理解し、様々な表現をするための筆使いを表現することができる。	
6 / 7	○漢字の書の学習④ 行書の基本用筆 ●蘭亭序 (神龍半印本)	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・行書の基本用筆を学ぶ ・蘭亭序の良さを味わう。	蘭亭序の歴史的背景を理解することができる。行書の持つリズムや流れを意識して表現することができる。	
	○多様な蘭亭序を味わう ●蘭亭序 (八柱第二本・八柱第三本)	2	【B 鑑賞】 ・2 種類の蘭亭序を「見る」と「書くこと」を通して鑑賞を深める。	2 種類の蘭亭序の違いを具体的に指摘し、違いを見極めたうえで、根拠を明らかにしてどちらの蘭亭序が好きかを説明する。	
	○漢字の書の学習⑤ 様々な行書の筆使いと書風 ●祭姪稿 ●風信帖	6	【A 表現】【B 鑑賞】 ・蘭亭序とは異なる行書の表現を学ぶ。 ・祭姪稿や風信帖の書かれた背景を理解し、古典を味わう。	祭姪稿の書かれた背景の理解を通して、線質や字形から作者の感情を感じ取ることができる。 蘭亭序とは異なる勢いのある行書の表現をすることができる。	
8 / 9 / 10	○漢字の書の学習⑥ 漢字創作 ●自選の漢字	2	【A 表現】【B 鑑賞】 ・漢字創作 ・画仙紙や色紙に文字を書く	これまでの古典の学習を踏まえながら、自分なりの意図に応じた書表現を工夫しながらすることができる。	
	○漢字の書の学習⑦ 篆書の用筆と運筆 ●泰山刻石	2	【A 表現】【B 鑑賞】 ・篆書の基本的な筆使いの習得	篆書の筆使いである、藏鋒、中鋒を習得し、篆書の特徴的な文字造形を表現できる。	
	○漢字の書の学習⑧ 篆刻の学習 ●様々な篆刻作品	6	【A 表現】【B 鑑賞】 ・篆刻についての理解を深める。 ・様々な篆刻作品に親しむ。 ・自分の落款印を制作する。	篆刻の歴史や用途についての理解を深めることができる。また、様々な篆刻作品の作風があることを理解できる。自分なりの落款印を制作することができる。	

11 / 12	○漢字の書の学習⑨ 隷書の筆使いと字形 ●曹全碑	2	【A表現】【B鑑賞】 ・隷書の筆使いの習得	隷書の基本的な筆使いを表現することができる。臨書例との違いを指摘することで、細かな字形の違いを意識して臨書できる。
	○古典を探求しよう ●曹全碑 ●張遷碑 ●様々な隷書	4	【B鑑賞】 ・張遷碑の分析 ・隷書の分類	張遷碑を多角的に観察し、特徴や良さを説明することができる。多様な隷書を、根拠を明確にしながら分類することができる。
	○漢字の書の学習⑩ 草書の用筆と運筆 ●書譜	2	【A表現】【B鑑賞】 ・基本的な草書の筆使いの習得	草書の特徴を理解するとともに、基本的な草書の筆使いができるようになる。
	○仮名の書① 仮名の基本的な筆使い ●いろは歌 ●蓬萊切	4	【A表現】【B鑑賞】 ・仮名に親しむ ・仮名の基本的な筆使いの習得 ・和歌を書く	仮名の基本的な筆使いができるようになる。文字の大小、行の流れ、墨の付け方に気をつけながら「蓬萊切」を書くことができる。
	○仮名の書② 単体と連綿 ●高野切第三種 ●元永本古今和歌集	4	【A表現】【B鑑賞】 ・仮名の書風の違いを理解する。	同じ和歌の作品を比較し、違いを指摘することで、書風の特徴を言葉にすることができる。字幅の変化や墨の付け方に注意して書くことで、行の流れを表現できる。
	○仮名の書③ 散らし書き ●三色紙	2	【A表現】【B鑑賞】 ・色紙の表現を味わう。	色紙の表現を味わい、意図について考えることができる。古典の散らし方を学び表現することができる。
	○仮名の書④ 仮名の創作 ●自選の和歌	2	【A表現】【B鑑賞】 ・散らし書きの創作 □対面授業②（予定）	仮名の基本的な用筆を生かして、自選の歌を表現することができる。意図に応じた構成や表現に向けて工夫することができる。
1 / 2 / 3	○漢字仮名交じりの書の学習① 楷書の古典の応用 ●海遠い海よ ●様々な現代の詩歌	4	【A表現】【B鑑賞】 ・漢字仮名交じりの書に触れる。 ・楷書の筆使いを応用した表現。	漢字仮名交じりの書の歴史等に触れ、どのような書なのかを理解するとともに、これまでに学習した楷書の古典の用筆を生かした表現をすることができる。
	○漢字仮名交じりの書の学習② 筆脈と字形 ●様々な漢字仮名交じりの書の作品 ●様々な現代の詩歌	4	【A表現】【B鑑賞】 ・行書の古典の表現を応用した表現。 ・字形を工夫して書く。	これまで学習してきた行書の古典を生かして書くことで、筆脈に留意して書くことができる。また、字形を工夫して表現を広げることができる。
	○漢字仮名交じりの書の学習③ カレンダーの制作 ●自選のことば等	4	【A表現】【B鑑賞】 ・構成の工夫 ・作品の構想・工夫	作品制作の過程を理解し、古典の応用、構成の工夫といった視点を加味しながら自分なりの表現をすることができる。
	○一年間のまとめ ●ポートフォリオに蓄積した自分の作品	2	【A表現】【B鑑賞】 ・一年間の学習の振り返り	自分のこれまでの書道の学習を振り返り、自分自身ができるようになったことを確認する。

科目名	英語コミュニケーションⅠ		履修学年	第1学年
			履修形態	必修
			履修単位	3単位
使用教科書 (出版社)	All Aboard! English CommunicationⅠ(東京書籍)			
使用教材 (出版社)	プレップイングリッシュ改訂版 高校英語の基礎作り(旺文社) All Abroad English CommunicationⅠ WORKBOOK(東京書籍) Focus on Listening Basic(エミル出版) データベース 4800 完成英単語・熟語(桐原書店)			
学習の目標				
中学校の学習事項を再確認し、一層の習熟をねらいとする。また、英語の基礎的・基本的な知識や技能の習得を土台として、コミュニケーション能力の育成を図る。「聞くこと」「読むこと」「話すこと」(やりとり)「話すこと」(発表)「書く」の5つの領域を総合的に関連づけ、技能向上を目指す。				
教科担当者から				
英語は、世界で一番多くの国と地域で使われている言葉です。英語を使えるようになると、世界中を旅したり、自分の世界を拡げたりすることができます。英語はどちらかと言うと、体育などの実技教科に似ており、たくさん使って(=練習をする)ことで上達していきます。授業を楽しみながら、ミスを恐れずにどんどん英語を使ってみましょう。評価は考查だけでなく、パフォーマンステストや普段の授業での取り組みも見していきます。お互い助け合いながら頑張っていきましょう。Join the class、try the class and enjoy the class!				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
規 準	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けてい		・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	◎ 重視するところ			
学習の状況の観察			◎	◎
課題の取り組み				◎
提出物	◎			◎
定期考査	◎		◎	
パフォーマンステスト	◎		◎	
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合(%)	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準									
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点					学習のねらい（評価のポイント）	時間
			L	R	Sや	S発	W		
前期		授業開き							1
	4	中学校内容の復習 (Warm-Up 1-3、Pre Lesson 1-3)		○		○	○	中学校内容の復習	9
	5	Lesson 1 Breakfast around the	○	○	○			世界の朝食を通して、国間の相違や特徴を理解する。	10
	6	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	○	○		○		珍しい動物と観光のルーツについて理解する。	9
		<前期中間考査>							1
		Lesson 3 A Train Driver in Sanriku	○	○			○	列車運転士のスピーチを読んで内容をまとめ、職業観を醸成す	9
	7	Lesson 4 A Miracle Mirror	○	○		○		海外の観光地について、魅力を理解し、行ってみたい場所を発表する。	9
	8	Lesson 5 Learning from the Sea	○	○		○	○	高校のユニークな部活動を通して、将来の夢について考える。	5
	9	<前期期末考査> (パフォーマンステスト)							1
		(防災学習)							2
									1
後期	10	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	○	○	○			浮世絵と現代マンガの関連性について考える。	8
	11	Lesson 7 A Diary of Hope	○	○	○			アンネ・フランクの生活や日記に関する記述を読み、内容をまとめる。	8
		<後期中間考査>							1
		Lesson 8 A Door to a New Life	○	○		○	○	ロボットの可能性についての記述を読み、人の生活を豊かにするロボットのアイデアを提案する。	8
	12	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution	○	○		○		環境問題に関する文を読み、環境を守るためにできることを提案する。	8
	1								3
	2	Lesson 10 Pigs from across the Sea	○	○	○			第2次世界大戦後の沖縄とハワイ在住の日系アメリカ人とのやりとりを読んで、現在の交流について理解する。	7
		<学年末考査> (パフォーマンステスト)							1
									2
	3	総復習		○			○		4

科目名	家庭総合		履修学年	第1学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	Creative Living『家庭総合』で生活をつくろう（大修館書店）			
使用教材 (出版社)	なし			
学習の目標				
- 生きていく上で必要な生活の実践力を身につける。 - 人の一生と家族・家庭、衣生活、消費生活、高齢社会、持続可能な社会に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 - 家庭や地域の生活課題を主体的に解決する能力と実践的な態度を身につける。				
教科担当者から				
- 日常生活と密接した内容を学習します。 - 授業で行う実習だけでは生活に関する技術は身に付きづらいので、授業で学習したことを家庭でも繰り返し実践すること。 - 定期考査（2回）の他に、提出物（期限厳守）や授業態度等の評価も高いので、意欲的に取り組むこと。 - 授業中に積極的に発言し、板書をノートにきれいに記入すること。 - プリントや振り返りフォームには、自分の意見を具体的に書くこと。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣生活、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけているか。また、被服実習において基礎的・基本的な技術を身につけることができたか。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣生活、消費生活などについて課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけているか。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣生活、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけているか。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察			○	
実習の取り組み	○		○	
グループワークへの取り組み		○	○	
提出物	○	○	○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	家庭科を学ぶにあたって			○	・学習の意義を理解し、目的意識をもつ。	1
	4～5	第1章 生活のマネジメント 1 生涯、発達し続ける 2 意志決定を重ねてつくる人生 3 どんな生き方をする？ 演習にTry! 人生を見通してみよう	○		○	・個人の発達段階の特徴と発達課題を知る。 ・ライフステージについて理解する。	5
			○	○	○	・様々なライフスタイルがあることを知り、自分の将来のライフスタイルを具体的にイメージする。	
	5	第2章 青年期の課題と自立 1 子どもからおとなへ 2 自立の達成をめざそう	○	○	○	・自分の生活と自分自身について自己理解を深める。 ・青年期は、自立した生活が営めるように、また、自己実現に向けて生きていくための準備をする時期であることを理解する。	4
			○	○			
	5～6	第3章 家族・家庭生活のマネジメント 1 家族って何だろう 2 わかってくれて当然？ 3 生活マネジメントの拠点 4 法律からみる家族・家庭 5 ダイバーシティの実現をめざす	○		○	・「家族」の定義を理解する。 ・家族と世帯について理解し、現代の家族の特徴と社会とのかかわりについて理解する。	6
			○	○	○	・家庭の機能が各家族員の協力によって果たされていることを認識し、各自の家庭での役割を考える。	
			○	○	○	・家族・家庭に関する法律を理解し、制度としての家族について考える。	
		防災学習			○		1
	6～9	第10章 衣生活のマネジメント 1 人と被服のかかわり 2 和服を着たこと、ある？ 3 快適な衣生活の条件 4 夏は麻、冬は毛の理由 5 健康と安全を守る被服 6 長持ちさせる手入れ 7 被服の3R、実践してる？ 8 オリジナルの被服をつくる 【実習】被服製作 9 衣生活のPDCA 前期期末考査	○		○	・人間と被服の関係を、被服の歴史から確認する。 ・衣文化の成り立ちを知り、その変化の過程と現代の衣生活との関係を知る。	18
			○		○	・被服の機能について知り、TPOやライフステージに応じて、自分も他人も快適になる被服の着用ができるようにする。	
				○	○	・被服材料の種類、性能、性能向上のための各種加工法を知る。	
			○		○	・洗濯の目的と方法、洗剤の種類と働きを理解する。 ・被服の収納の方法を工夫し、実践する態度を養う。	
○			○	○	・衣生活における資源や環境問題を考え、配慮する姿勢を持つ。		
○			○	○	・被服製作の工程と留意点を理解し、日常生活に役立つ縫製に関する基本的な知識と手法を理解する。		
○				○	・既製衣料品には種々の表示があることを知り、表示の内容を理解する。		
○			○				
○			○				
○			○				
後期	10～11	第8章 経済生活のマネジメント 1 生活を営むためのお金 2 経済のしくみを知ろう 3 お金と上手につきあう術 演習にTry! ライフプランを立てよう 【言語活動】グループワーク 4 18歳で変わる消費生活 5 進むキャッシュレス社会 6 「お金を借りる」ということ 7 消費者トラブルの今 8 消費者の自立を支援する 9 情報社会を生きる 10 私たちが社会を動かす 【金融リテラシー検定受検】	○		○	・労働に関する契約や条件について知る。 ・毎日の生活を営むために必要な費用を知る。 ・家計を中心とした経済の循環を知る。 ・リスク管理について知る。 ・家計管理と資金管理について知る。 ・消費にかかわる契約について理解する。 ・契約を交わす際の注意点、契約を交わしたときに発生する法的責任、契約に関するトラブルについて知る。	19
			○		○	・経済発展や技術の進歩により、消費生活は多様化・複雑化していることを理解する。 ・商品の購入方法、支払い方法の種類と特徴を知る。	
			○	○	○	・消費者信用について理解する。	
			○	○	○	・消費者問題が発生する原因を知る。 ・問題商法の現状を知り、なぜ、被害が起こるのかを考える。	
			○		○	・売買契約のトラブルや消費者問題から消費者を救済する法律や制度について理解する。 ・クーリング・オフ制度について理解する。	
			○	○			
			○	○			
			○	○			
			○	○			
			○	○			
	12～2	第5章 高齢期の生活のマネジメント 1 人生100年時代の高齢期 2 年をとると変わること 3 高齢期の生活を支える 4 介護を支える 5 これからの高齢社会	○		○	・人間の発達の完成期であり、同時に現代社会の課題でもある高齢期への関心を高める。 ・高齢者の心身の特徴を知り、高齢期の生活を充実させるための個人的・社会的方策を考える。	10
			○	○	○	・高齢者の生活課題を把握する。 ・高齢者の自立を支援するための社会保障、社会福祉制度について理解する。	
			○	○	○	・介護保険制度の概要を理解する。 ・高齢者の介助を体験し、実践できるようにする。	
			○	○	○		
	3	第7章 持続可能な社会をつくる 1 地球が危ない 2 ライフスタイル再考 3 めざせ！持続可能な社会 【言語活動】レポート作成	○		○	・日々おこなっている生活の行為が環境へ負荷を及ぼしていることを理解する。 ・SDGsについて理解し、一人一人の行動変容こそが大きな解決の力となることを理解する。	4
			○	○		・持続可能な社会と個々人のライフスタイルの関連を理解させ、実践に結びつけられるようにする。	
○				○	・持続可能な社会を実現するために必要な法律や制度について理解する。		
	学年末考査	○	○			1	

科目名	情報Ⅰ	履修学年	第1学年	
		履修形態	必修	
		履修単位	2単位	
使用教科書 (出版社)	図説情報Ⅰ（実教出版株式会社）			
使用教材 (出版社)	Excelで学ぶ全商情報処理検定テキスト 3級ビジネス情報部門（実教出版） 図説情報Ⅰ 学習ノート（実教出版）			
学習の目標				
情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」を身に付ける。				
教科担当者から				
教科書を使用した学習だけでなく、たくさんの実習を行います。積極的に取り組みしっかり課題を提出してください。なお、実習については、成果だけではなく実習の過程における努力も評価します。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規準	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を生かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。	情報や情報社会に関心を持ち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察			○	
課題の取り組み		○	○	
提出物	○	○		
定期考査	○			
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B	C	
評価割合（％）	100～85	84～30	29～0	
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期		オリエンテーション			○	・中学校までの生徒の知識・技能・経験などの調査を行う。 ・コンピュータの起動や終了方法を習得する。 ・自己紹介などの文章を作成し、共有フォルダに保存する実習を行うことで、必要な操作を習得する。 ・コンピュータ教室でのマナーを理解する。 ・タイピングを習得する。	5
	4～6	序章 情報社会と私たち 1 情報と情報社会の特徴 2 情報化の進展と情報技術 3 情報化社会における個人の責任	○	○		・データと情報の違いについて理解し、事例をあげて説明することができる。	10
			○			・情報の特徴（残存性、複製性、伝搬性）について、意味を理解している。	
				○	○	・情報化の光と影について理解した上で、ネット依存など個人に与えている影響に対して考え、適切な判断することができる。	
			○			・情報の信憑性、信頼性の意味を理解している。	
				○		・匿名の意味を理解し、匿名性によるメリット、デメリットについて考え、適切な判断することができる。	
	6～8	1 章 情報社会と問題解決 1 問題解決の手順 2 情報の収集と整理 3 情報の管理と保護 4 知的財産権と産業財産権 5 著作権 6 認証とパスワード 7 コンピュータウィルスと対策			○	・情報社会における様々な問題点を理解した上で、情報モラルについて考え、自らの行動を振り返り、改善しようとしている。	
			○	○		・表計算ソフトウェアを活用し、統計処理等を行い、伝えたい情報に合った適切なグラフを作成できる技能を身に付けている。	20
			○	○		・収集した情報を整理し、情報を効果的に分析するための適切な資料を作成し、考察することができる。	
					○	・関心・意欲をもって、収集した情報の整理・分析などを行い、主体的に問題解決に取り組んでいる。	
○					・知的財産権の概要について理解し、経済や文化の発展との関係を理解している。		
○					・著作権者の権利と伝達者の権利についての法規やルールについて理解している。		
○					・個人が行うセキュリティ対策である認証の考え方や管理について理解している。		
			○		・安全性の高いパスワードを設定する方法を身に付けている。		
			○		・パスワードの設定について考え、適切に判断し管理することができる。		
○					・コンピュータウィルスなどマルウェアの特徴や対策について理解している。		
後期	9～10	前期期末考査 2章 コミュニケーションと情報デザイン 1 メディアの機能と特性 2 情報デザインの考え方	○			・さまざまな意味をもつメディアの機能と特徴について理解している。	35
					○	・メディアから提供された情報を主体的に読み解こうとする態度を身に付けている。	8
			○			・ユニバーサルデザイン、アクセシビリティの意味や目的について理解している。	
	10～12	3章 情報とコンピュータ 1 デジタル表現の特徴 2 2進数と情報量 3 数値の表現 4 文字のデジタル表現 5 音の表現 6 画像の表現 7 動画の表現とファイル形式	○			・アナログとデジタルのそれぞれ特徴や違いを理解している。	10
				○		・ビット数と情報量の関係について説明することができる。	
			○			・2進数の簡単な加算と減算について理解している。	
			○			・コンピュータにおける文字表現である文字コードの特徴について理解している。	
					○	・文字のデジタル表現について、興味・関心をもって取り組んでいる。	
			○			・音やデジタル化（標本化、量子化、符号化）の仕組みについて理解している。	
			○			・画像のデジタル化（標本化、量子化、符号化）の仕組みについて理解している。	
○					・動画の表現方法とデータの圧縮方法について理解している。		
1～3	4章 アルゴリズムとプログラミング 1 アルゴリズム 2 アルゴリズムの基本構造 3 簡単なプログラムの作成 4 プログラムと変数		○	○	・アルゴリズムの基本とプログラムの意味を理解している。	15	
		○			・アルゴリズムの基本構造（順次構造、選択構造、繰り返し構造）を理解している。		
			○		・プログラミング言語を用いたプログラムの作成について理解している。		
		○			・プログラムにおける変数の役割について理解している。		
	防災学習 学年末考査				防災について、情報Ⅰの視点から主体的に学習することができる。	1	
						1	

科目名	ホームルーム活動	履修学年	第1学年						
		履修形態	必修						
		履修単位	1単位						
使用教科書 (出版社)	なし								
使用教材 (出版社)	独自のプリント等								
学習の目標									
(1) 生徒一人一人が学級の役割を分担し、話し合いや委員会活動を通して、学級生活や学校生活の向上に努める態度を育てる。									
(2) 好ましい人間関係を基盤に、生徒一人一人の個人的、社会的適応を図り、自己を生かす能力を育てるとともに、心身ともに健康で安全な生活習慣を身に付けさせる。									
(3) 学業生活について、個別的、継続的な指導を行い、自主的に学ぼうとする意欲や態度を育てるとともに、よりよい将来の生き方と適切な進路を選択する能力を育てる。									
学習内容									
学期	月	単元名／学習内容	学習のねらい	評価の観点				時間	
前期	4	入学式	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		頭髪検査	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		H R 役員選出	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		生徒総会議案書審議	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		キャリアパスポート（前期）	学業と進路					1	
		心電図 胸部X線	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		心電図 胸部X線	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
	5	学校祭オリエンテーション	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		学級裁量（学校祭）	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
	6	学級裁量（学校祭）	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		学級裁量（学校祭）	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		学級裁量（学校祭）	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		学級裁量（学校祭）	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
	7	キャリアパスポート（中期）	学業と進路					1	
		学級裁量（防災研修）	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		学級裁量（防災研修）	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		学級裁量（防災研修）	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		学級裁量（防災研修）	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
夏期休業前LHR		ホームルームづくり・学校の生活づくり					1		
8		夏期休業明けLHR 頭髪服装検査	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
9	H R 役員選出	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1		
	学級裁量	学業と進路					1		
後期	10	後期始業式後LHR 頭髪服装検査	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		科目選択	学業と進路					1	
		科目選択	学業と進路					1	
		学級裁量（進路）	学業と進路					1	
		生徒総会議案書審議	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
	11	スポーツ大会原案審議	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		学級裁量（考査）	学業と進路					1	
	12	スポーツ大会選手決め	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		冬季休業前LHR	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
	1	冬季休業明けLHR 頭髪服装検査	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
	2	キャリアパスポート（後期）	学業と進路					1	
		学級裁量（考査）	学業と進路					1	
		卒業式予行	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
	3	学級裁量	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
終業式		ホームルームづくり・学校の生活づくり					1		
								35	

科目名	総合的な探究の時間	履修学年	第1学年
		履修形態	必修
		履修単位	1単位
使用教科書 (出版社)	なし		
使用教材 (出版社)	独自プリント等		
学習の目標			
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための次の資質・能力を育成することを目指す。 (1) 探究の過程における課題の発見と解決に必要な知識及び技能。 (2) 自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現する力。 (3) 互いのよさを生かしながら、主体的・協働的に探究に取り組み、よりよい社会を実現しようとする態度。			
教科担当者から			
総合的な探究の時間では、様々な体験的学習を通して自分たちが暮らす地域のことを学びます。 さらに、学びを通して「社会を知る」中で、「自分を知る」ことにも繋げていきます。 取り組みは、自ら主体的に学び、その学んだことを他者にわかりやすく伝える活動が中心となります。			
評価の観点・方法・割合			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
規 準	探究の過程における課題の発見と解決に必要な知識及び技能が身についている。	自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現する力が身についている。	互いのよさを生かしながら、主体的・協働的に探究に取り組み、よりよい社会を実現しようとしている。
評価方法	○ 重視するところ		
学習態度の 観察			○
提出課題の 確認	○		
課題発表の 観察		○	

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	総合的な探究の時間オリエンテーション			○	探究活動の目的や年間の流れを理解し、自らの学びの目標を設定することができる。	1
	5	防災研修 講話			○	防災の基本知識や災害時の対応について理解し、命を守る意識を高めることができる。	1
	6	防災研修 事前学習	○		○	災害の種類や対策について調べ、自分や地域の安全を守る方法を考えることができる。	3
後期	10	防災研修（スライド作成）		○		防災に関する学びを整理し、スライドにまとめて分かりやすく伝える力を養う。	12
	10	町内企業見学		○		地域の企業活動を理解し、社会との関わりや働くことの意義について考えることができる。	7
	11	大学見学		○		大学の学びや研究内容に触れ、自分の進路選択に活かせる視点を養うことができる。	6
	11	防災研修発表会（1日防災学校）	○			学んだ防災知識を発表し、他者と意見を交換しながら自分の考えを深めることができる。	5

科目名	メナシ学	履修学年	第1学年
		履修形態	必修
		履修単位	1単位
使用教科書 (出版社)	なし		
使用教材 (出版社)	独自プリント等		
学習の目標			
探究の見方・考え方を働かせ、地域が抱える課題に向き合い、地域の自然や歴史文化と産業についての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとする態度を育てる。			
教科担当者から			
メナシ学では自然・文化の体験や地域課題を通した学びやから持続可能な社会を考え、地域の社会課題を探究します。 取り組みは、自ら主体的に学び、その学んだことを他者にわかりやすく伝える活動が中心となります。			
評価の観点・方法・割合			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
規 準	探究の過程における課題の発見と解決に必要な知識及び技能が身についている。	自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現する力が身についている。	互いのよさを生かしながら、主体的・協働的に探究に取り組み、よりよい社会を実現しようとしている。
評価方法	○ 重視するところ		
学習態度の 観察			○
提出課題の 確認	○		
課題発表の 観察		○	

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	メナシ学オリエンテーション			○	メナシ学の目的や年間の流れを理解し、地域探究への意欲を高め、自らの学びの目標を設定することができる。	2
	5	サーモンパーク「サケの聖地」	○			サケの生態や地域文化におけるサケの役割について学び、地域資源の大切さを理解することができる。	3
	5	標津町番屋ガイドウォーク	○			番屋の歴史や地域の暮らしに触れ、地域文化の特徴を理解し、地域の魅力を発見することができる。	3
	6	探究活動（野付巡検）		○		野付半島の自然環境や生態系について現地調査を行い、地域の自然保護の重要性を考えることができる。	7
	7	野付巡検（スライド作成・発表）		○		現地での観察や調査を通して、地域環境の特徴や課題を見つけ出し、課題解決の視点を養うことができる。	9
後期	10	ポー川巡検	○			ポー川周辺の自然や文化遺産を調査し、地域と自然環境の関わりについて理解を深めることができる。	5
	11	ポー川巡検（まとめ）		○		調査結果を振り返り、ポー川巡検で得た学びを整理・分析し、地域課題への理解を深めることができる。	2
	12	アイヌ文化・アイヌ紋様について			○	アイヌ文化や紋様の意味を学び、多様な文化への理解と尊重の態度を養うことができる。	4